

第22回 高輪築堤調査・保存等検討委員会

日時：2022年9月7日（水）11:00～

場所：JR 東日本現地会議室

次 第

(1) 開会

(2) 第21回委員会（8/3）の議事録確認 【資料1】

(3) 調査の進捗について 【資料2】

(4) 第8橋梁北横仕切堤の文化財的価値について 【資料3】

(5) 第7橋梁橋台部および信号台部の目地材分析結果について（報告） 【資料4】

(6) 駅街区地区の取扱いについて 【資料5】

(7) その他

(8) 閉会

※なお、資料のなかで個人に関する情報や事業の関係等で非公開である情報については、一部表現を修正しています。その他、写真・図について一部訂正や出典等の加筆・修正をしています。

第 21 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会

開催記録（案）

1 開催概要

- 日時：令和 4 年 8 月 3 日（水）10：00 ～ 11：00
- 場所：JR 東日本現地会議室
- 出席者：

表 出席者一覧

委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・谷川 章雄氏（早稲田大学 人間科学学術院 教授） ※オンライン出席
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・老川 慶喜氏（立教大学 名誉教授） ・小野田 滋氏（鉄道総合技術研究所 情報管理部 担当部長） ・古関 潤一氏（東京大学 社会基盤学専攻 教授）
オブザーバー	<ul style="list-style-type: none"> ・文化庁文化財第二課 史跡部門 ・文化庁文化財第二課 埋蔵文化財部門 ・港区教育委員会事務局 教育推進部 図書文化財課 ・港区街づくり支援部 ・東京都 教育庁 地域教育支援部 管理課 ・東京都 交通局 建設工務部 計画改良課 ・東京都 建設局 道路建設部 鉄道関連事業課 ・独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 都心業務部 ・鉄道博物館 学芸部 ・東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター ・東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模開発部門 ・東日本旅客鉄道株式会社 マーケティング本部
事務局 東日本旅客鉄道(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模開発部門 ・東日本旅客鉄道株式会社 マーケティング本部 他
サポート	<ul style="list-style-type: none"> ・パシフィックコンサルタンツ(株)

- 当日配布資料
 - ・ 次第
 - ・ 資料 1： 第 20 回開催記録
 - ・ 資料 2-1： 高輪築堤調査状況について（7 月 22 日現在）
 - ・ 資料 2-2： 埋蔵文化財調査の進捗について
 - ・ 資料 2-3： 2 街区全体図
 - ・ 資料 3： 報告書作成の方針

2 議事要旨

(1) 開会

- 第 21 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会を開会する。本日は谷川委員長がオンライン参加であり、進行は老川委員にお願いをしている。(事務局)
 - ← オンライン参加の谷川委員長に代わり進行を務める。(老川委員長代)

(2) 第 20 回委員会 (7/6) の議事録確認

- 各委員事前に確認済みであり本委員会終了までに修正指摘がなければ確定とする。(老川委員長代)
 - ← 了解。(委員一同)

(3) 調査の進捗について

- 2 街区の発掘調査は終了でよいか？(谷川委員長)
 - ← その通りである。(港区)
- 資料 2-1 で周知の埋蔵文化財包蔵地範囲を示しているが、6 月末に変更している。都の HP で更新しているので、今後の資料表記には反映してもらいたい。(東京都)

(4) 報告書作成の方針

- 資料 3 は、前回提示した資料に加筆したものであり、その個所を下線で示す。(委員長)
- 「3. 自然科学分析の主題」の「土木工学による高輪築堤跡の検討」から「土木」という言葉を外し、「工学的観点からの検討」という表現をした方がよい。第 7 橋梁でのポアホールレーダー調査は土木工学に限るものではないので、そのような変更が適切である。(古関委員)
 - 土木工学がメインだが、信号機は通信機器となるので電気工学からのアプローチも必要になるので「工学的観点」という表現がよい。(小野田委員)
 - ← 逆に曖昧にならないか。「土木工学等工学的観点からの」という表現はいかがか。(老川委員長代)
 - 鉄道はシステムなので工学という言葉が最も全体を表している。(小野田委員)
 - 工学的観点は広い範囲を示すので、全体を含むというという理解でよいのではないか。(委員長)
 - ⇒ 「工学的観点」という表現に変更する。(老川委員長代)
- 接着剤は土木では目地と表現する。タール状のものが何なのかまだ明瞭ではない。あとから何か手を加えた時に付着した可能性など、引き続き確認が必要である。表現は「接着剤等」でもよい。(小野田委員)
 - ⇒ 「接着剤等」のままを進める。(老川委員長代)

- 「1. 発掘調査成果の着目点及び課題」に「高輪築堤以前の遺構・遺物」とあるが、その次に汽車土瓶などの「高輪築堤に関連する遺物」の項目を入れた方がよいと思う。(東京都)
 - ← 築堤に鉄道が通った後のものなので、2 つ目の項目ではなく下位の方がよいと考える。(JR)
 - ← 高輪築堤「跡」に関連する遺物という形がよい。(委員長)
 - ⇒ 箇条書きの最下位に「高輪築堤跡に関連する遺物」という項目を追加する。(老川委員長代)
- 品川宿の位置について、原田勝正先生の文献によると鉄道のルートを設定した後に海の方に移ったという記載があった。「高輪海岸及び周辺」の、周辺の中に品川宿も入るという理解で、品川宿に関する調査も大事である。(老川委員長代)
- 本日の指摘を受けた修正をもって、作成の方針を終了とする。(老川委員長代)

(5) その他

- 報告書の作成スケジュールを教えてほしい。(小野田委員)
 - ← 示せる段階で示したいが、2 年 + α くらいかかると想定している。(港区)
- 中間報告を出す予定はあるか。(小野田委員)
 - ← 注目も高いので、HP でデータによる中間報告などを考えたい。(港区)

(6) 閉会

- 第 21 回高輪築堤調査・保存等検討委員会を閉会する。(事務局)

3 議事録

3.1 開会

- (事務局) 第21回 高輪築堤調査・保存等検討委員会を開会する。本日は谷川委員長がオンライン参加となっている。
- ・ オンライン・サテライトの説明
 - ・ 配布資料の確認
 - ・ 次第の説明
- (事務局) 本日の進行は、老川委員にお願いをしている。
- (老川委員長代) オンライン参加の谷川委員長に代わり進行を務める。

3.2 第20回委員会(7/6)の議事録確認

- (老川委員長代) 事前に確認をしているものとなる。内容について修正があれば、本委員会終了までに申告してもらいたい。申告がなければ確定とする。
- (委員一同) 了解。

3.3 調査の進捗について

※港区より説明：資料 2-1・2-2・2-3

- (港区) 調査の進捗について資料 2-1 から順に説明する。2 街区の北横仕切堤だけ残っていたが完了し、本日午後に引き渡しを予定している。JR との協定に基づく調査はこれで完了となる。
- (老川委員長代) 何か質問はあるか？
- (委員長) 現場を見る機会がなかったが、2 街区は終了でよいか？
- (港区) その通りである。
- (委員長) 何とか終了ができてよかった。
- (東京都) 資料 2-1 の黒い太枠で周知の埋蔵文化財包蔵地範囲を示しているが、6 月末に変更している。6 街区と荷捌き部をつなぐかたちで南側に一部延長、また、第 7 橋梁に伴う南横仕切堤、北横仕切堤用の遺構、2 街区の北横仕切堤の計 4 か所が追加されている。都の HP で更新しているので、今後の資料表記には反映してもらいたい。
- (老川委員長代) 他になければ、次に進む。

3.4 報告書作成の方針

※委員長より説明：資料 3

- (委員長) 資料 3 は私から説明する。前回提示したものに加筆してある。加筆箇所はアンダーラインの箇所となる。「2. 考察の主題」の1つ目の「・」の中で、築堤の終焉の後に「埋め立て」、歴史的変遷の後に「技術の系譜」を加えた。江戸時代からの在来の技術と、西洋の技術の系譜の流れを明らかにしようということである。2つ目の「・」に近世史という表現を加えた。これは「4. 文献調査の主題」で江戸時代の高輪海岸及び周辺という追加をしているので対応させている。「3. 自然科学分析の主題」について接着剤と加えた。目地材等のことを指す。私の記憶では黒色のタール状の物質が台に付着していたものがあったと思われる。3つ目の「・」の土木工学による高輪区築堤跡の検討という部分は、古関先生から「工学的観点からの高輪築堤跡の検討」という表現がよいのではないかという指摘を受けている。「4. 文献調査の主題」については高輪海岸がどこまでの範囲か明瞭ではないため、及び周辺という表現をした。
- (古関委員) 前回の議事録にも「土木工学的観点からの検討が重要である」という私の発言があるが、「3. 自然科学分析の主題」3つ目の「・」は土木工学という言葉を外し、工学的観点からの検討という表現をした方がよいと思っている。第7橋梁ではボアホールレーダー調査を行ったが、これは土木工学に限るものではないので、そのような変更が適切かと思っている。
- (小野田委員) 土木工学がメインになるが、例えば信号機などは電気工学というか通信機器となるのでその分野からのアプローチも必要になる。ということで工学的観点がよい。
- (老川委員長代) 逆に曖昧になってしまわないか？「土木工学等工学的観点」からという表現はいかがか？
- (小野田委員) 鉄道はシステムなので、工学という言葉が最も全体を表している。
- (委員長) 工学的観点は割と広い範囲となる。そういうものを含むという理解でよろしいのではないか？
- (老川委員長代) 他になれば、工学的観点という表現と変更する。
- (小野田委員) 接着剤という表現は、土木では目地という表現をする。タール状のものが何なのかまだ明瞭ではない。アスファルトのような材料は当時まだなかったもので、あとから何か手を加えた時に付着してしまったものかなど、引き続き確認をしていくべきである。表現は「接着剤等」でもよい。
- (老川委員長代) 他になれば、「接着剤等」のままで進める。
- (東京都) 「1. 発掘調査成果の着目点及び課題」に1つ目の「・」に高輪築堤以

前の遺構・遺物とあるが、鉄道と関連する遺物を入れておいた方がよいと思うがいかがか？2つ目の「・」に「高輪築堤に関連する遺物」を追加するのはどうか。

- (JR) 汽車土瓶などは築堤に鉄道が通った後のものとなるので、2つ目の「・」でなく下位の方が座りがよいと思う。
- (老川委員長代) では最後の「・」として高輪築堤に関連する遺物という項目を追加することとしたい。
- (委員長) 「高輪築堤「跡」に関連する遺物」という表現がよい。
- (老川委員長代) 異論なければそのようにする。
- (老川委員長代) 「4. 文献調査の主題」、品川宿の位置について、原田勝正先生の文献によると鉄道のルートを設定した後に海の方に移ったという記載があった。「高輪海岸及び周辺」の、周辺の中に品川宿も入るという理解でよいかと思う。品川宿に関する調査も大事かと思われる。
- (老川委員長代) 他になければ、本日の指摘を受けて作成の方針を修正して終了とする。次に進む。

3.5 その他

- (小野田委員) 報告書のスケジュールを教えてください。
- (港区) 示せる段階で示したい。2年+ α くらいかかると想定している。
- (小野田委員) 中間報告を出すことはあるか？
- (港区) 注目も高いので、例えばHPでデータによる中間報告を行うなどを考えたい。汐留ほどにはならないと思うが9冊ほどでかなりのボリュームとなる。
- (老川委員長代) 他になければ、行政から意見をもらう。
- (文化庁) 本日、現地発掘調査が終わるということでよかった。
- (東京都) 報告書刊行までが発掘調査なので引き続き協力を頂きたい。
- (港区) これまでの調査への協力を感謝する。引き続き息の長い作業となるが、改めて気を引き締めて取り組みたい。引き続きご教授を頂きたい。
- (老川委員長代) それでは、本日は終了する。

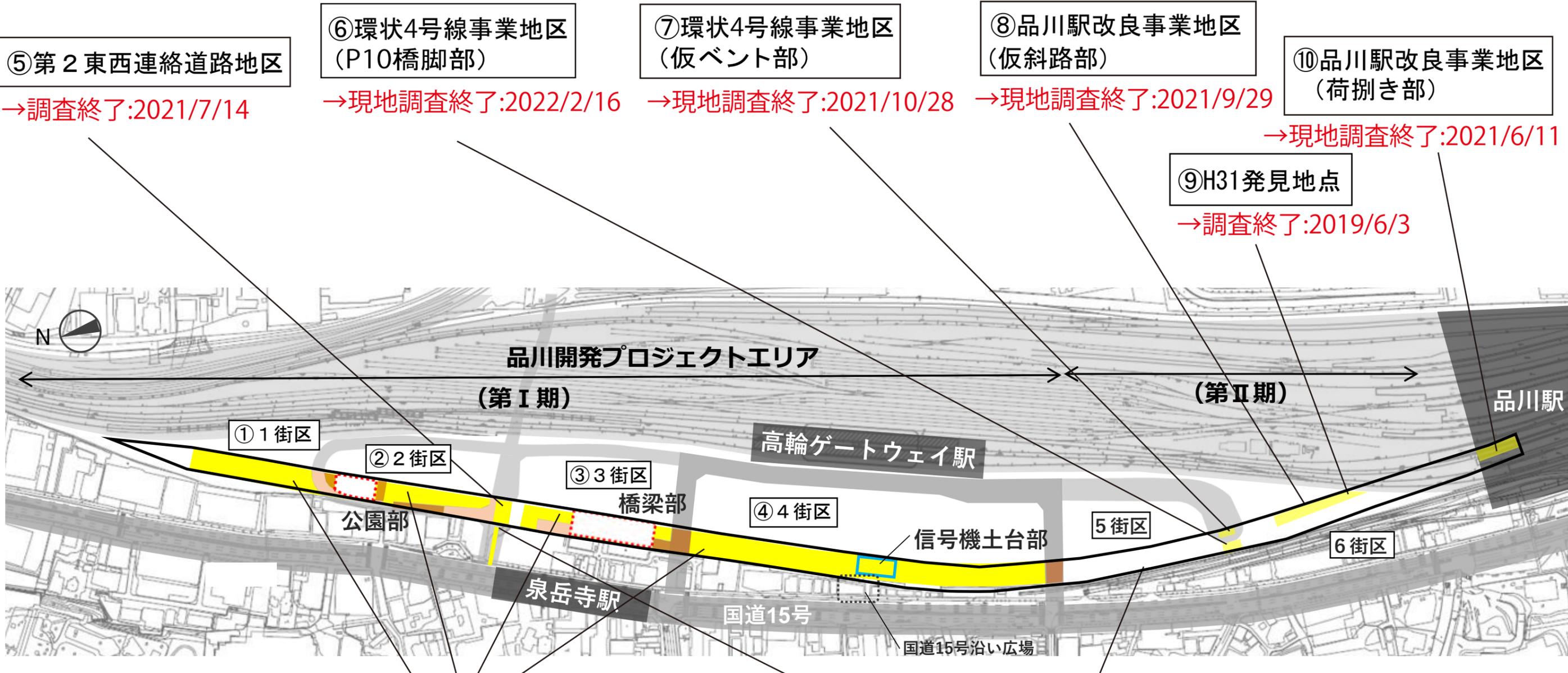
3.6 閉会

- (事務局) 第21回高輪築堤調査・保存等検討委員会を閉会する。

以上

高輪築堤調査状況について（報告）（2022年8月27日現在）

【資料2-1】



凡例

- 国指定史跡範囲(2021.9.17告示)
- 周知の埋蔵文化財包蔵地範囲
- 記録保存 現地保存(土中保存)
- 現地保存・一部記録保存(土中)

①~④ 1~4街区

→現地調査終了

- 1街区:2022/1/14
- 2街区:2022/8/3
- 3街区:2021/11/5
- 4街区:2022/2/7

⑥泉岳寺駅改良事業地区

⑤京急連立事業地区

→I工区トレンチ調査:7/25~



参考

【1~4街区の協定】

- 協定締結:2021年4月27日
- 変更協定締結(範囲変更):2021年8月23日
- 変更協定締結(期間延長):2021年10月21日
- 変更協定締結(期間再延長):2022年2月28日

【環状4号線事業地区の協定】

- 協定締結:2021年9月
- 変更協定締結(範囲変更):2021年10月11日
- 変更協定締結(期間延長):2022年1月25日

【京急連立事業地区(I工区)】

- 協定締結:2022年7月22日

【泉岳寺駅改良事業地区】

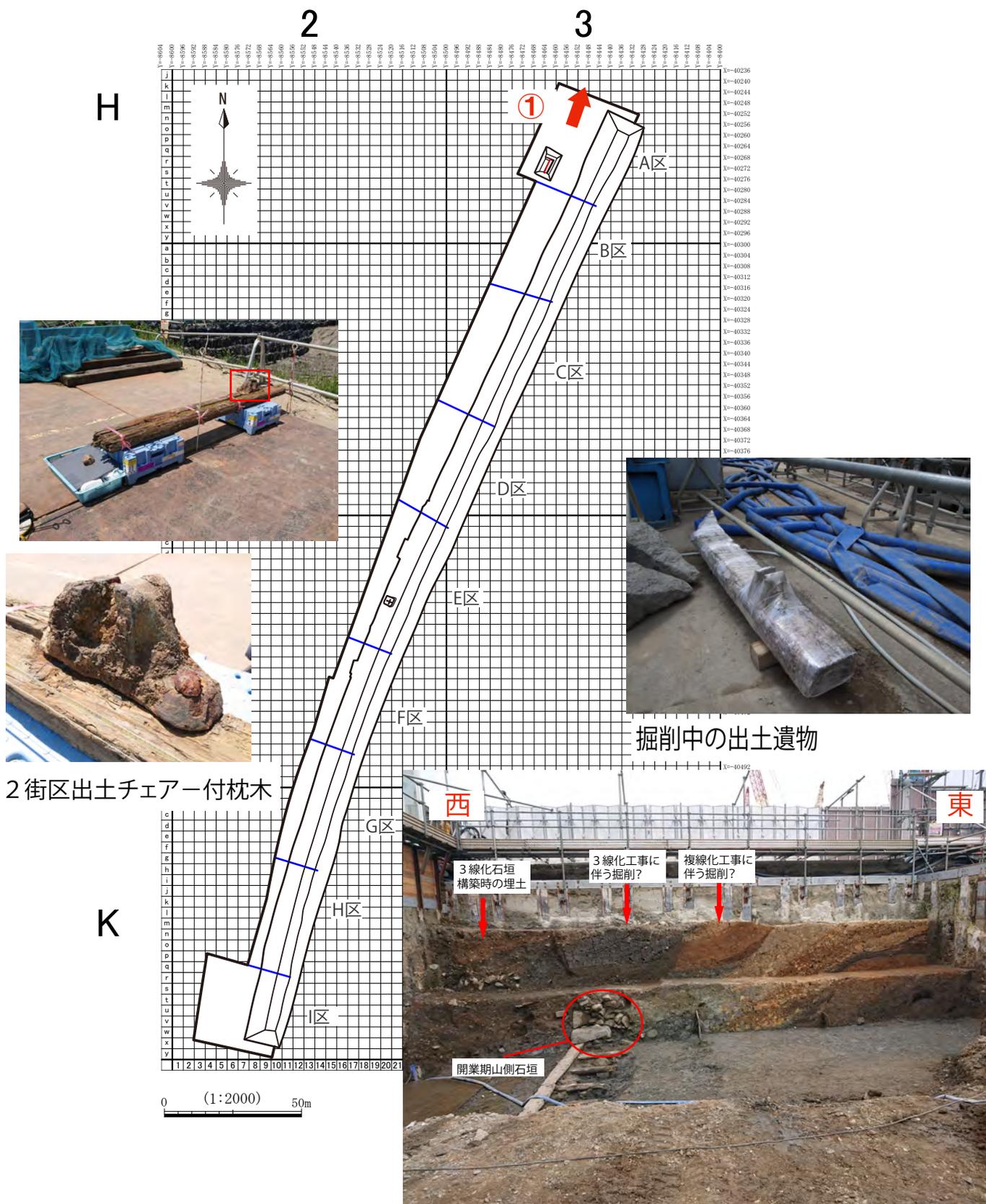
- 協定締結:2022年7月6日

高輪築堤跡(港区No.208)埋蔵文化財調査の進捗について

2022(令和4).8.28現在

地 点	協定日	着手日	区割り	海側石垣		築堤上面 (パラスト)	築堤内部 芯材	山側石垣		終了確認日	保存関係	調査特記内容	備 考	
				開業時 石垣等	波除杭			開業時 石垣等	3線時 石垣等					
①1街区		21/5/24	A~D (4区)	○	○	○	○	△	○	2022/1/14		・笠石?出土 ・芯材に瓦片を利用 ・芯材に破砕瓦を利用(B区) ・築堤構築以前の遺構を確認(B・C区)	8/23の変更協定によってD区追加 記録保存調査終了	
②2街区	2021/4/27 2021/8/23 (変更協定) 2021/10/21 (変更2回目) 2022/2/28 (変更3回目)	21/6/21	A~E (5区)	○	○	○	○	○	○	2022/8/3	A区 (40m史跡指定 2021/9/17告示)	・築堤上面のまくら木痕 ・双頭レール出土 ・芯材に土丹塊を利用(C区) ・開業時の北横仕切堤を確認(2E-2区) ・笠石?出土 ・まくら木付チェアー出土	2021/8/23の変更協定によって一部追加 2022/2/28の変更協定によって一部追加 記録保存調査終了	
③3街区		21/5/24	A~D (4区)	○	○	×	○	○	○	2021/11/5	D区 (第7橋台含む80m 史跡指定 2021/9/17告示)	・第7橋台(D区)	8/23の変更協定によって一部追加 記録保存調査終了	
④4街区		21/5/17	A~I (9区)	○	○	×	○	○	○	2022/2/7	E区 (信号機跡含む30m 移築保存)	・海側石垣上に張り出し部を確認(信号機跡か) ・B区山側で横仕切堤確認 ・まくら木付チェアー出土 ・チェアー単体での出土 ・十字組基礎×2(信号台部)	記録保存調査終了	
⑤泉岳寺駅改良工事地区 (第7橋北横仕切堤)	2022/7/6	22/7/6	北・南 (2区)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
⑥京急連立事業地区	2022/7/22 (1工区トレンチ)			/	/	/	/	/	/	/	/	・3線化(明治32年)以前に周辺で埋立 工事の可能性有 ・事業用地の一部で築堤の一部(複線化 時盛土)を確認 ・第8橋梁の北横仕切堤を確認	間知石積側溝の調査終了 (2022.3.30) 1工区(5街区)のトレンチ調査 着手予定(7/25~)	
⑦環状4号線事業地区	2021/9/27 2021/10/11 (変更協定) 2022/1/25 (変更2回目)	21/9/27		/	○	○	○	/	/	・2021/10/28(仮ベント部) ・2022/2/16(P10橋脚部)	・複線化の痕跡(?)を確認 ・4街区と類似した土留め材を検出	記録保存調査終了 (2022.2.16)		
⑧第2東西連絡道路地区	2020/9/1 2020/11/10 (変更協定)	20/9/1		○	○	×	○	○	○	2020/12/22		法面下追加調査2021/7/1~7/14 (終了確認済)	記録保存調査終了	
⑨H31発見地点		19/5/30	19/6/3	○	/	×	○	/	/	2019/6/3			記録保存調査終了	
品川駅改良事業地区	2021/2/26	⑩仮斜路部		○	○	/	/	/	/	2021/9/29			記録保存調査終了	
		⑪荷捌き部		○	○	/	/	/	/	2021/6/11			記録保存調査終了	
《 凡例 》 ○:残存確認 △:検出されず ×:削平等により取り除かれている /:調査範囲外				《 成果の要点 》 ・海側の石垣はほぼ開業期の姿で残っている ・山側の開業時の石垣は、第7橋台を挟む南北の横仕切堤の間で確認されているが、そのほかの地区では未検出である ・築堤とともに第7橋台及び信号機跡が確認されている ・築堤は4街区の信号機部で湾曲するか、その南北は直線的に伸びている ・山側は3線時に拡張されている ・築堤構築の変遷と内部構造を確認中 ・北横仕切堤の構築時期・方法等や、周辺の関連遺構との関係を調査中										

4街区



①A区北壁(開業期~複線化期)

泉岳寺駅改良工事に伴う北横仕切堤の調査



①北側石積み検出状況 (2022. 7. 25)



②大谷石除去後- 1 (2022. 8. 5)



③大谷石除去後- 2 (2022. 8. 5)



④B除去後 (2022. 8. 5)



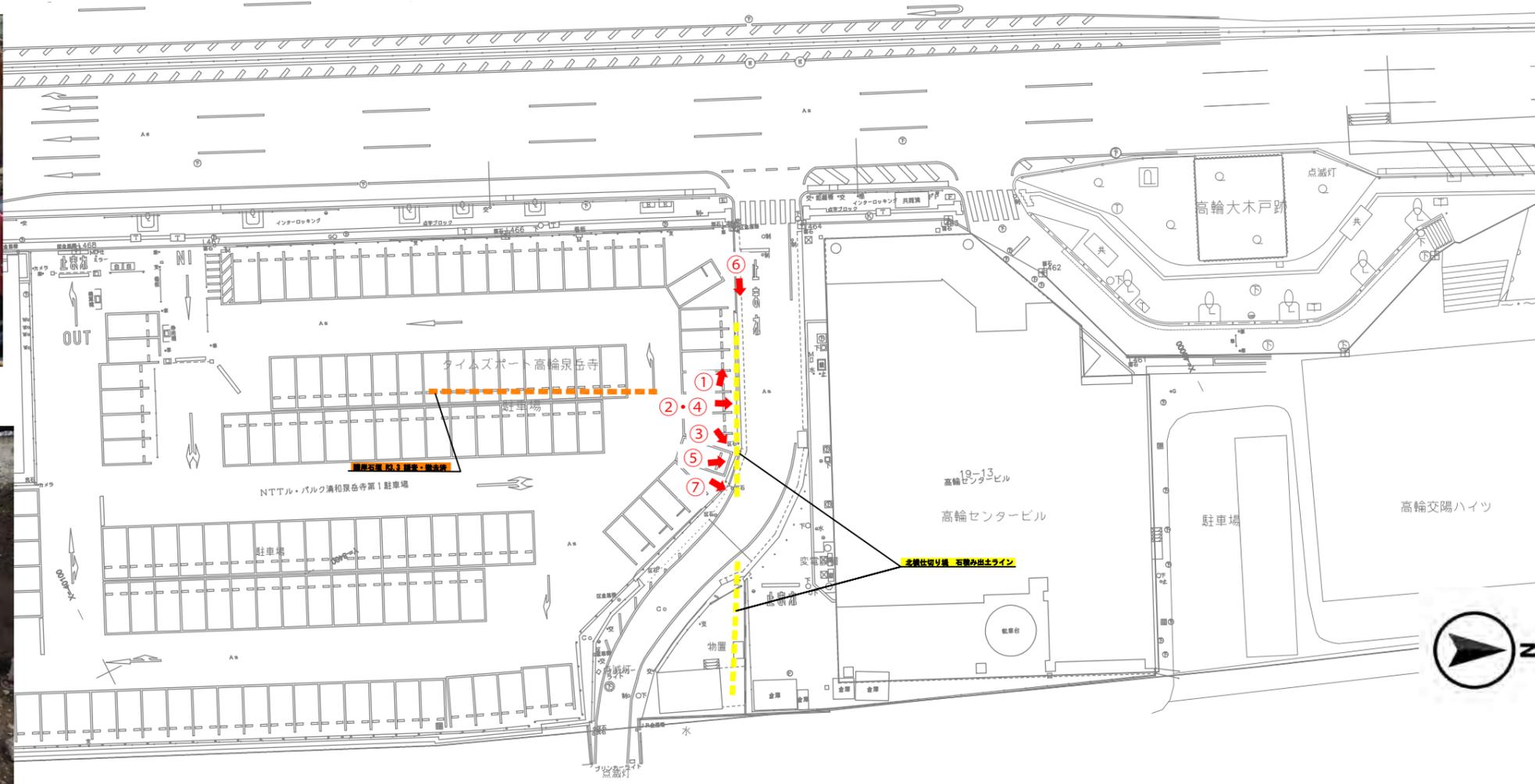
⑤C除去後 (2022. 8. 22)



⑥攪乱除去後- 1 (2022. 8. 24)

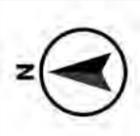


⑦攪乱 (A) 除去後-2 (2022. 8. 24)

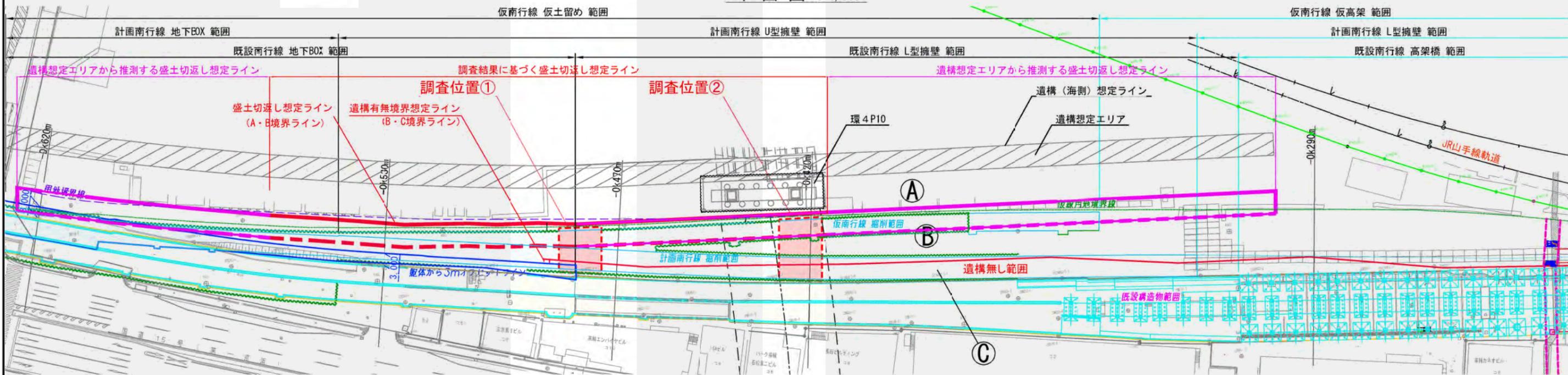


京急連立事業 1 工区のトレンチ調査 (速報)

【資料2-5】

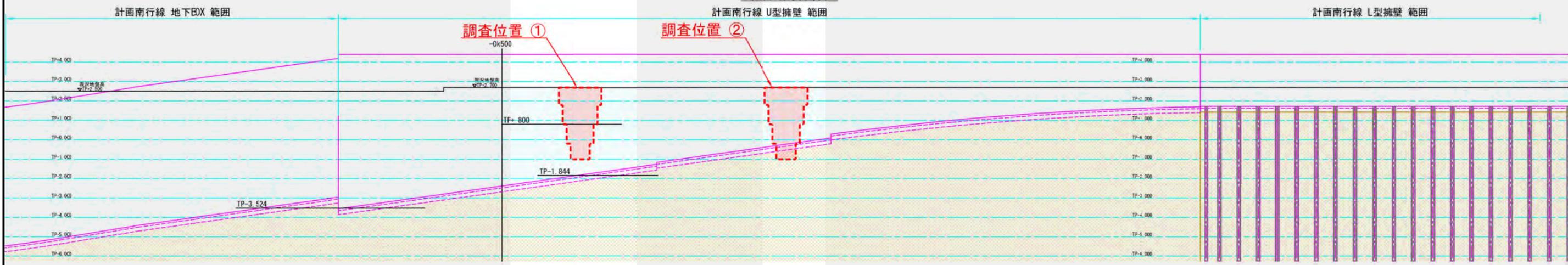


平面図 S=1/500

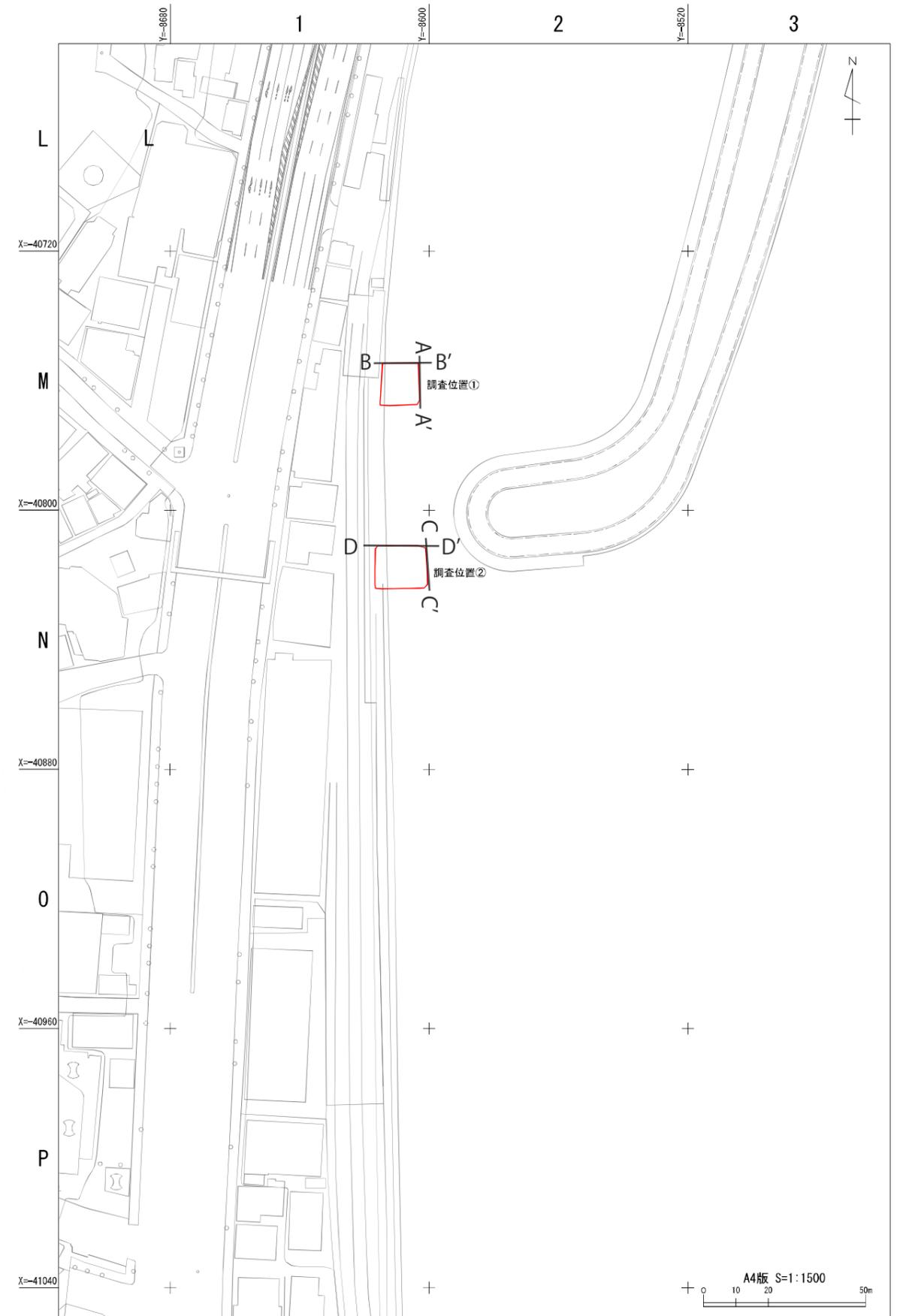
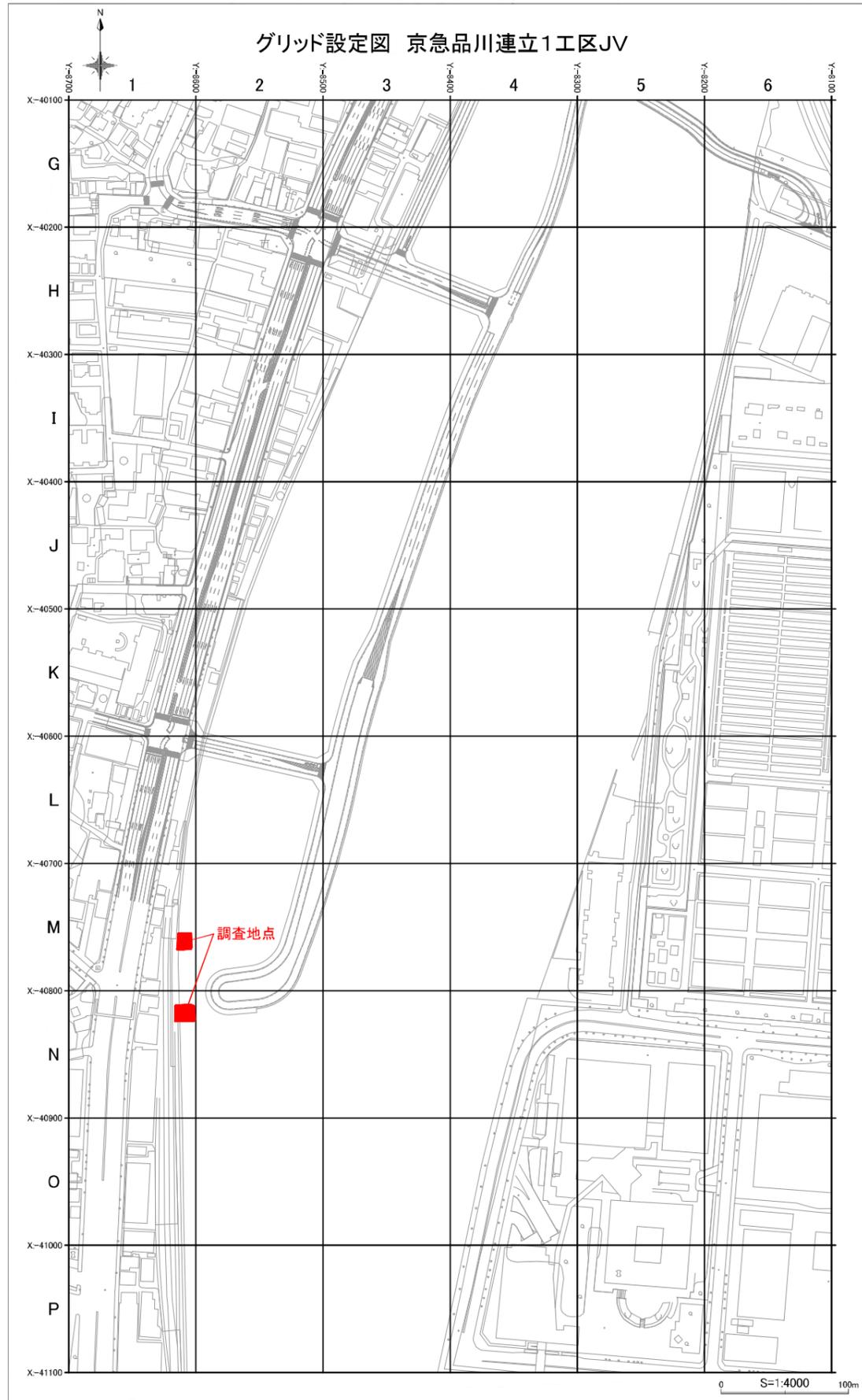


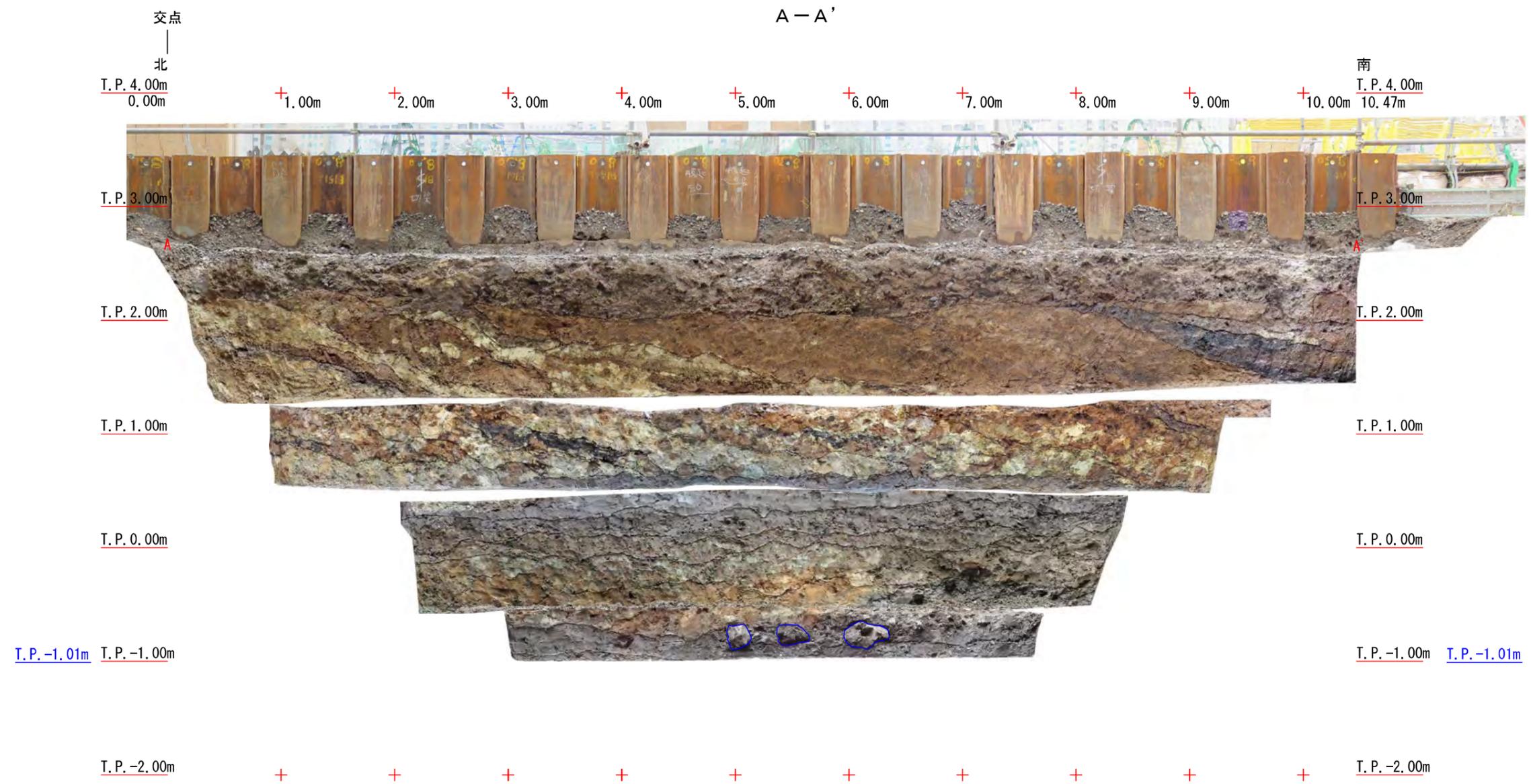
側面図 横 : S=1/500 縦 : S=1/100

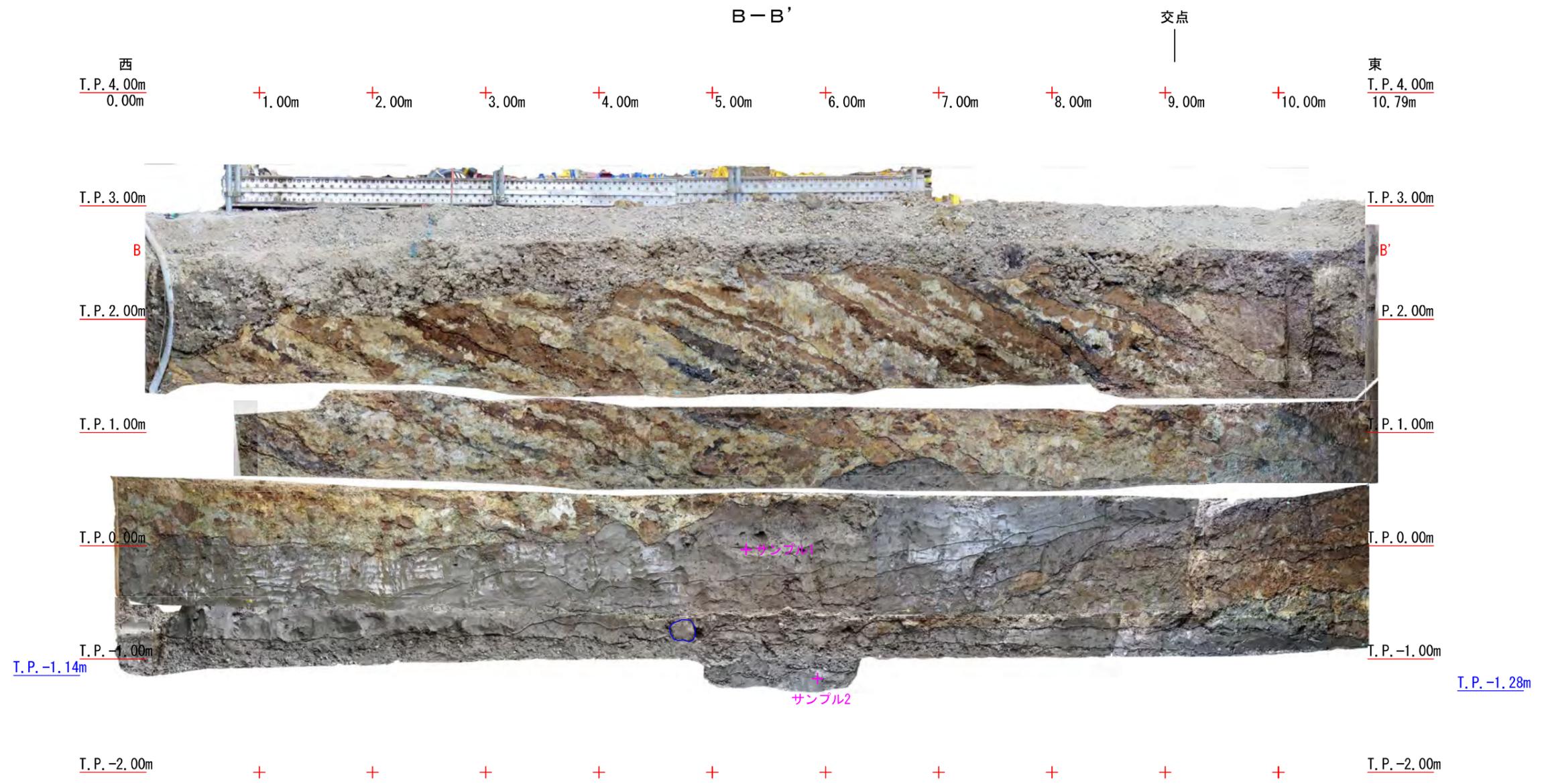
〈計画南行線〉



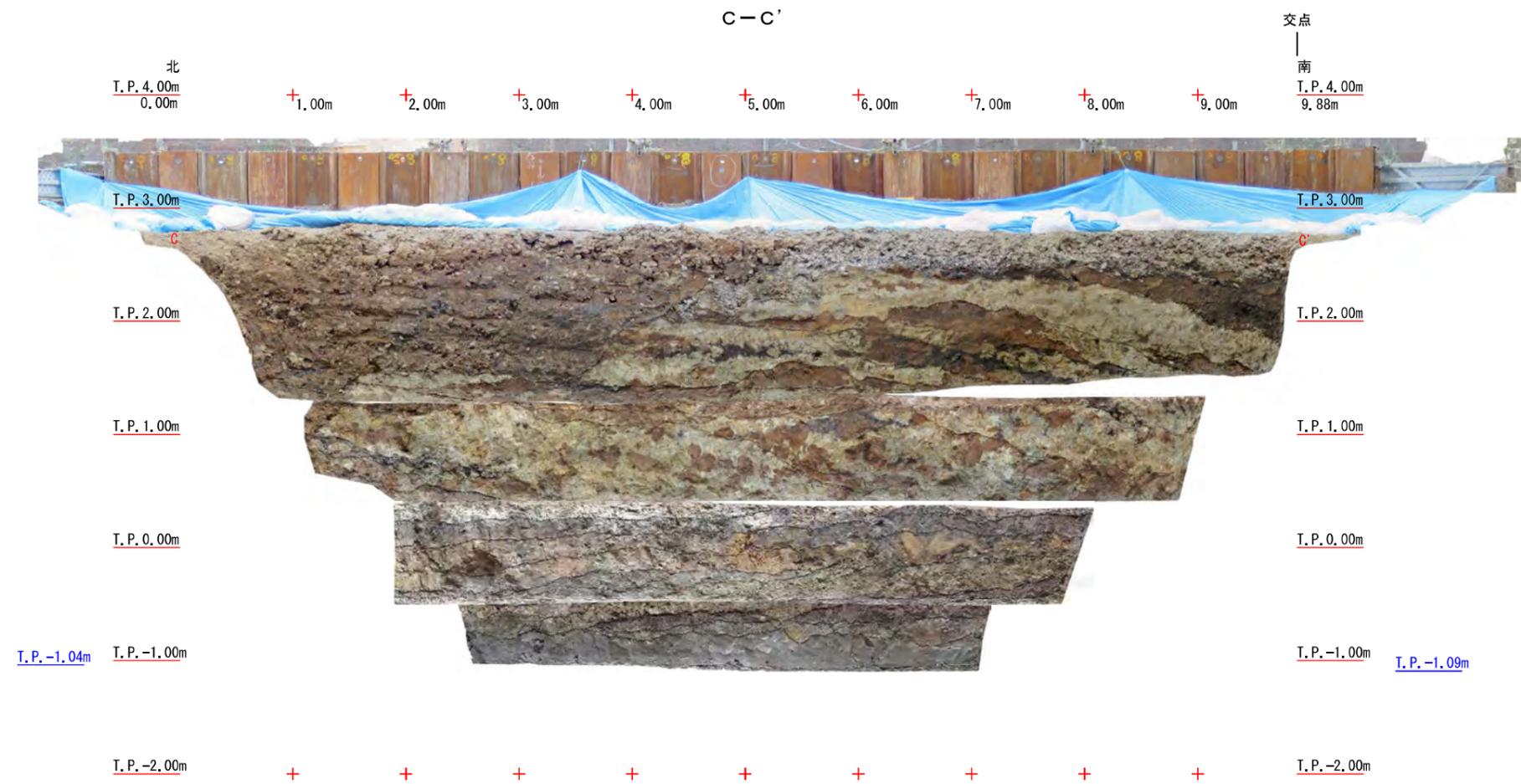
京急品川連立1工区JV 全体平面図



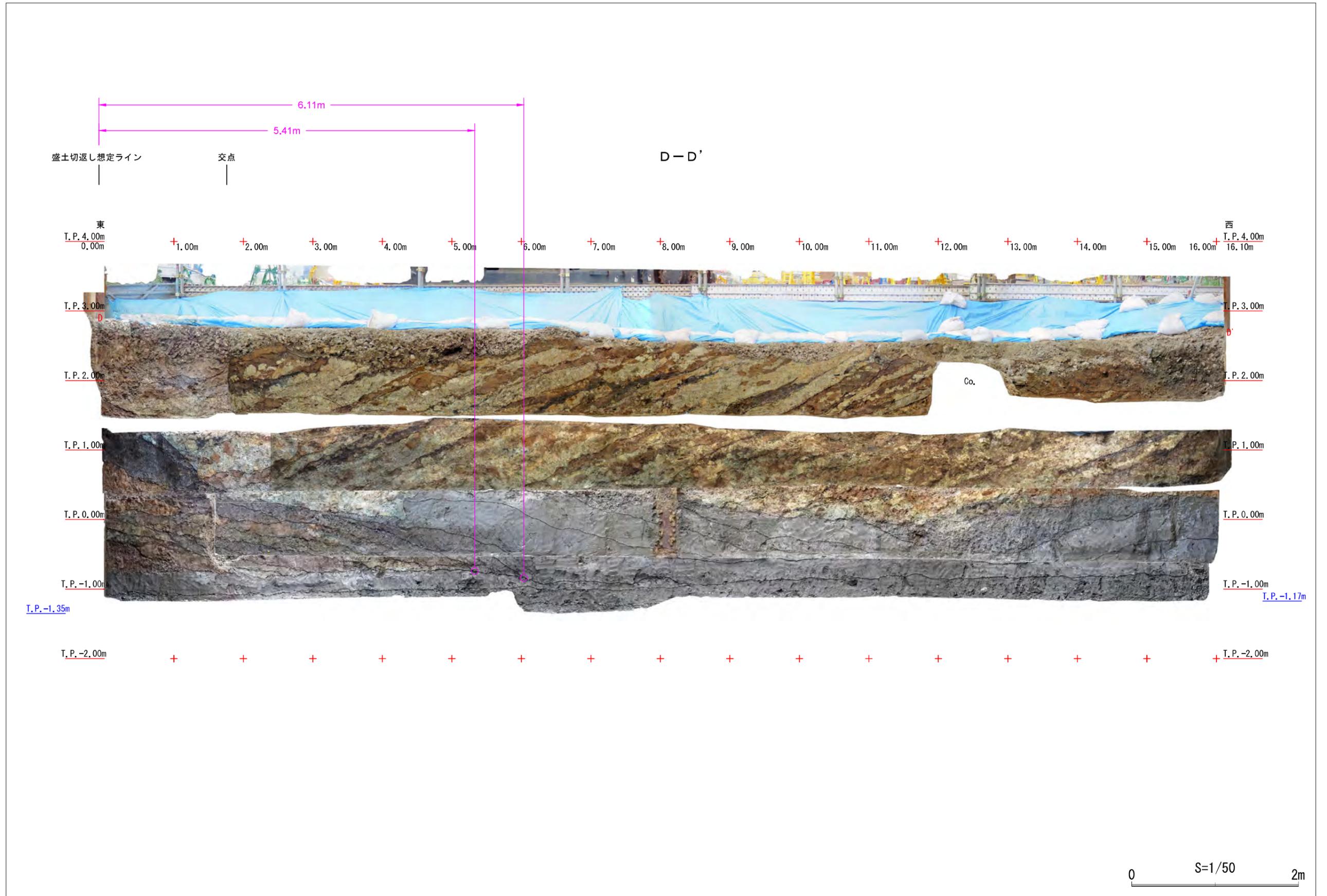




0 S=1/40 2m



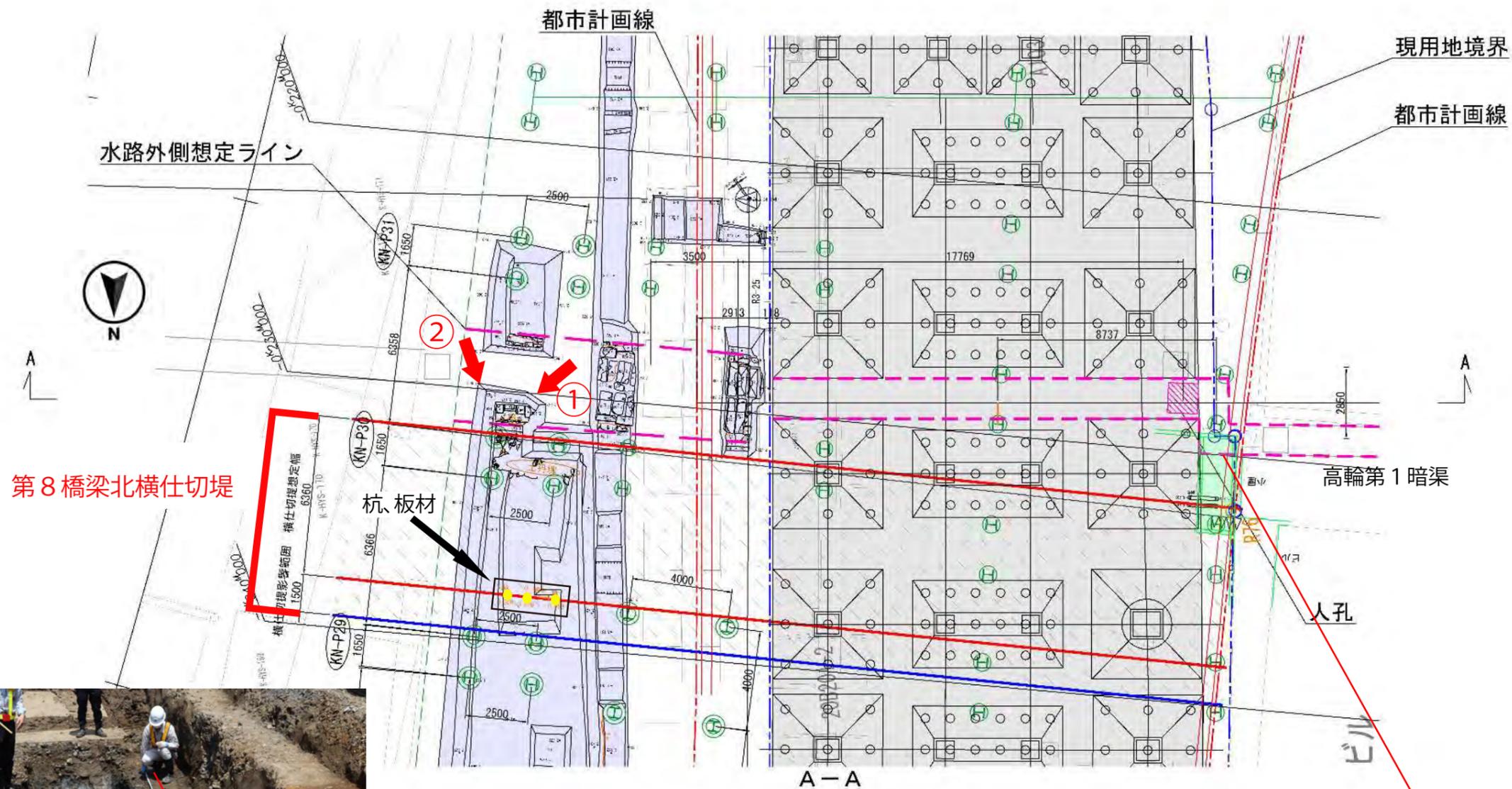
0 S=1/50 2m



1 工区横仕切提想定位置図 S=1/100

平面図

【資料3】



①北横仕切堤確認状況－1



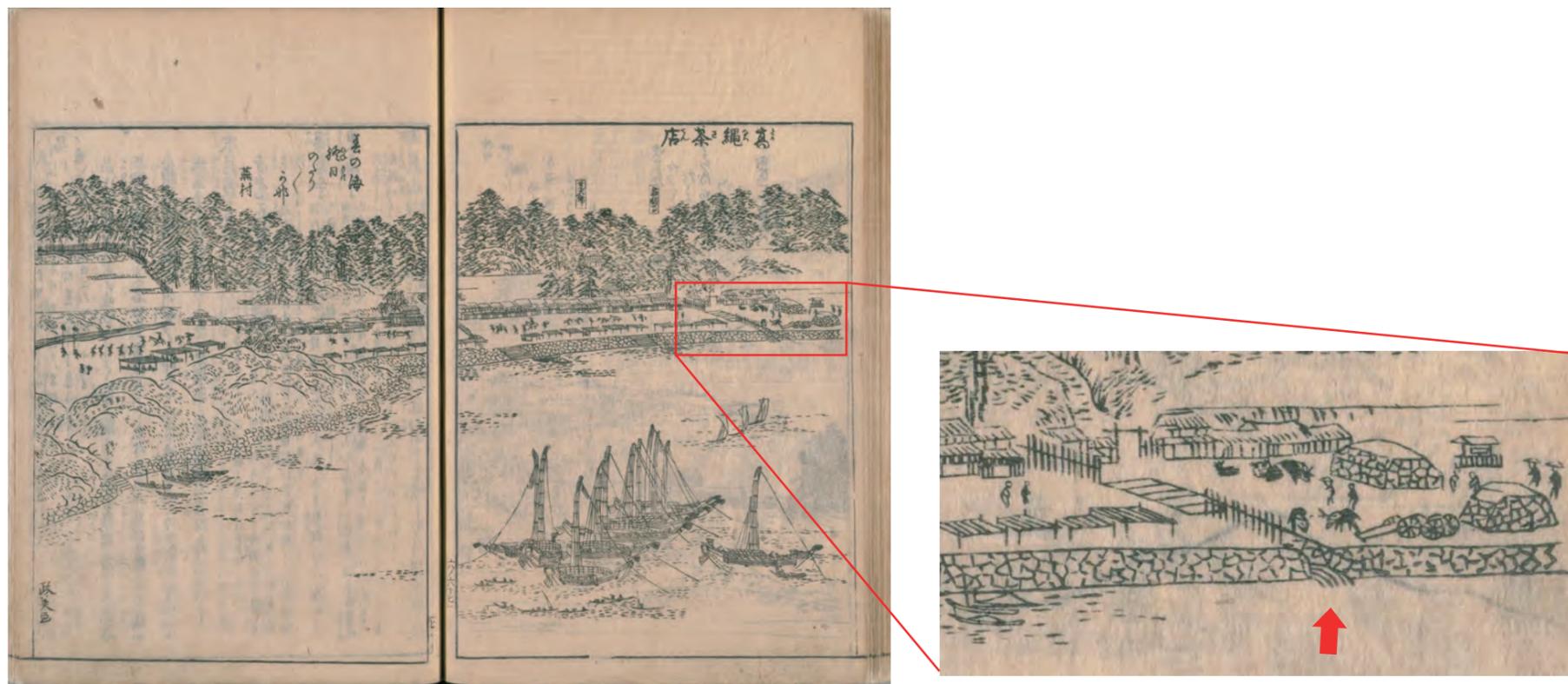
②北横仕切堤確認状況－2



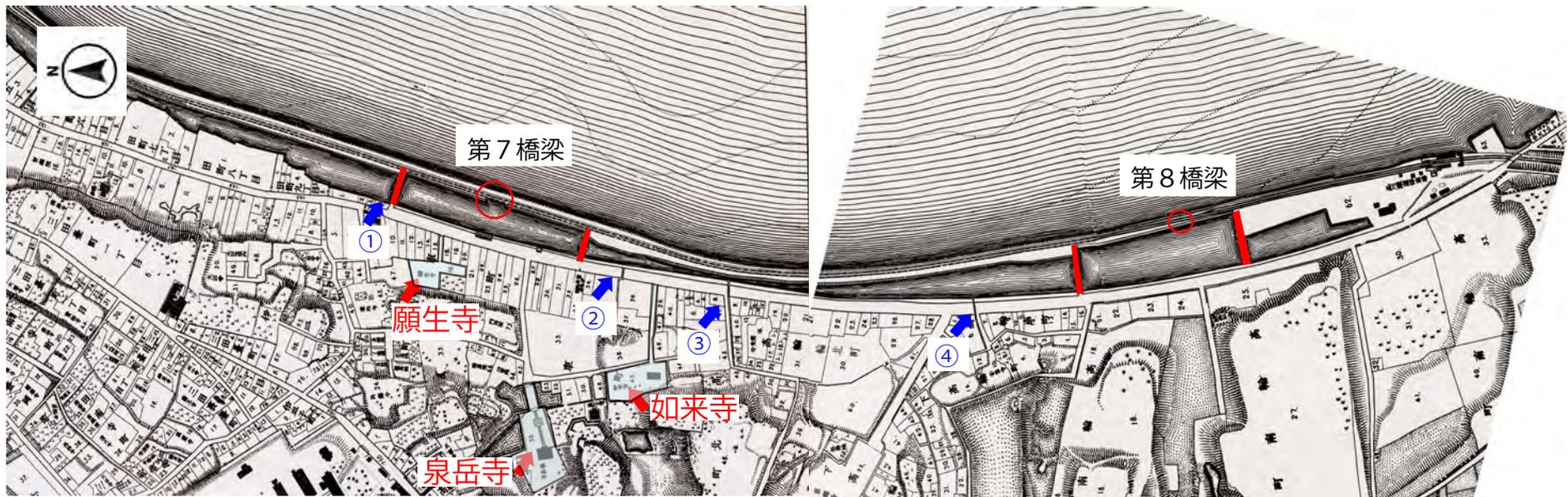
石垣写真



高輪車町沽券図（元文元・二（1736～37）以降成立）に一部加筆（港区立郷土歴史館蔵）



『東海道名所圖會』6巻「高輪茶店」に一部加筆（国立国会図書館デジタルアーカイブより）



明治20年



明治30年

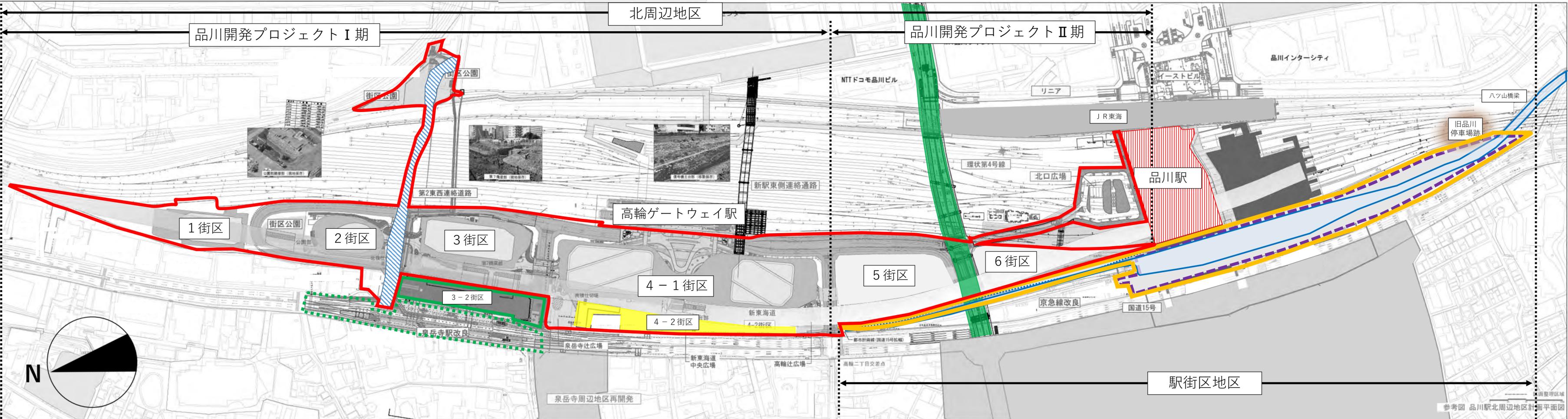
■事業範囲図（土地区画整理事業範囲）

部会①：J R東日本事務局

凡例	事業	部会	事業主体
	北周辺地区 土地区画整備事業 ※京急仮線部含む	①	U R
	品川開発プロジェクト (1～6街区)		J R東日本
	4-2街区		再開発組合
	第二東西連絡通路		U R
	環状第4号線		東京都 建設局
	3-2街区		東京都 都市整備局
	泉岳寺駅改良		東京都 交通局
	品川駅改良		J R東日本

部会②：京急事務局

凡例	事業	部会	事業主体
	駅街区地区 土地区画整理事業	②	U R
	品川駅街区 地区事業		J R東日本
	京急連立		京急 東京都 建設局



参考図 品川駅北周辺地区計画平面図